

株式会社 丸上物流

の巻

二〇世紀最後の年である二〇〇〇年を迎えてはや二ヵ月がたちました。

暦の上でも桃の節句や啓蟄が過ぎ、今か今かと開花を待ちわびる桜のつぼみの膨らみが、春の訪れを肌身を感じさせてくれる季節になりました。

三寒四温という言葉があるとおり、前日までは寒風が吹いていて日中でもコートが手放せませんでした



▲右から上西社長と上西係長、飯田所長

が、取材日となった今日(三月七日)は、うってかわってからだを動かすと汗ばむほどのポカポカ陽気に恵まれました。

事業所訪問の三七回目としてお邪魔することとなったのは本社を船橋市に構える株式会社丸上物流でした。

私たちの今回の取材では、営業所と事務室の二ヵ所でお話を伺うこととなりました。

見事なオートメーション化で理想の物流システムを実現

最初に車を走らせたのは、市川市高谷新町にある「オートボックス」東日本ロジスティックセンター内にある営業所でした。

東京湾を臨む工業地帯のなかで、約二万二、〇〇〇平方メートルの広大な敷地に、「オートボックスセブン」が取り扱う商品管理等をシステムチツ

クに行う延床面積約三万平方メートルの倉庫の二階に「こんにちは健保組合です！」と飯田所長(健保保険組合の互選理事に就任されています)を訪ねました。

「いらっしやい！」とお忙しいなか、快く取材を受け入れてくださった飯田所長が、私たちを迎え入れてくださいました。

ここでは、現場で実際に行われている作業についてお聞きすることとなりました。

皆さんは車を取り扱う職業柄、個人的にもカー用品には興味があるかと思いますが、「オートボックス」は、全国規模で店舗を展開している「カー用品総合専門店オートボックス」が販売している商品の管理・配送を一括して担い、販売の第一線である店舗に欠品が出ないよう、スピーディーかつ効率的に供給するシステムを構築された施設なのだそうです。この施設は東日本をフォローし、二四時間以内に商品が店舗に届けられるような仕組みが確立されています。このようなセンターは兵庫県にもあり、全国を二分して「双子のセンター」として物流ネットワークの理想的な商品供給体制が実現したのだそうです。

丸上物流は東日本センターにおいて、商品の仕分けや配送といったネットワークの根幹に携わっており、フランチャイズチェーンの本部である「株式会社オートボックスセブン」にとって欠かせない存在として位置していることはいまでもありません。

このセンターにお邪魔した目的は、物流システムを見学させていただくことでもありました。飯田所長にセンター内を案内していただきましたが、最初に同氏が、「このシステムはほかにはない」とおっしゃるほど見事にオートメーション化されていたことに、驚きを隠せませんでした。商品の入荷からオーダーがあった際の梱包、出荷まですべてコンピュータ制御されており、倉庫内を縦横無尽にコンベアが配置されていて、一万三、〇〇〇アイテムもある倉庫の中から必要な商品が必要な量だけ取り出され(ピッキング)て店舗ごとにトラックに積み込まれます。人間の手が加えられる部分はきわめて少なく、まるで出荷用のダンボールケースに命が注がれたように、自由自在に動いているといった錯覚に陥ってしまいました。ほんとうにすごい施設でした。

もつと細部まで見学させていただきました。

きたかったのですが、時間の都合もあり、これでセンターを後にすることにしました。

健全経営の基本は企業の体力をつけること

場所を変えて、次は同社の事務部門を担当している西船事務分室に向かいました。そこは、JR西船橋駅にほど近いビルの一室にあり、ご多忙のなか、時間を割いてくださった上西社長が取材に同席くださいました。ごあいさつを申し上げた後、最初の取材に関連して同社の歴史等からお聞きすることとなりました。

丸上物流の創立は昭和三十九年にさかのぼります。現社長が船橋市に丸上商店として設立された当時は製紙、コールドール等の販売に関連した配送を行っておられたとのこと、



▲オートメ化された物流システムの一隅

その後、石油製品や家畜産品を取り扱うこととなったことから、関連会社である川吉運送株式会社を買収して本格的にグループとしての運送事業が始まったそうです。その後カーメーカーや自動車販売機、店舗用シヨーケースのメーカーである株式会社サンデンとの取り引きを始められ、一時休眠期間を経て、前述したオートボックス関連の業務も行うこととなったそうです。

上西社長は、「荷主に恵まれた」とおっしゃいましたが、このような発展は氏の地道な努力とご苦労の賜物であることを、温厚そうななかにも情熱的な面が垣間見える人柄が示しておられました。

同社は、厳しい経済環境下にあっても収益力が衰えず、税務所管内の優良法人として何度も表彰されておられるように、企業の体力をつけることが健全経営の基本であることが大切だと、この話題を締めくくられました。

「これからの展望は」と上西社長にお聞きすると、「時節柄、特に新たな投資は考えていないが、インターネット社会のなかで物流業界の一員としてできる何か新しいヒントが見つかれば幸い」と、世の中を席卷しそうなメディアにもすでに視野を広

げておられるようでした。さて、話題は社員の方々の教育等に移りました。

「この業界は現場第一」と断言され、社員の個々の人間性を把握したうえで、仕事の現場において適切な教育が実を結ぶのだとおっしゃいました。本来であれば、研修制度を取り入れながら人材育成に努める場所ですが、そこまで余力のある環境は整っていないのが現状であり、生の研修こそがこの業界には馴染むのだということでした。

薬に頼らず自然のものを取り入れて健康維持

その後、お二人から社会保障のあり方についてお話を伺いました。

これからは年齢を問わず応分の受益者負担が必要で、将来のビジョンを政府は明確にすべきとおっしゃられ、健保組合も厳しい状況が続いているが、「皆保険」は必要な制度なのでがんばるように、と励ましの言葉をいただきました。

まだまだ話題はつきませんでしたが、最後に上西社長の健康法をお聞きして取材を終えました。氏の健康法は、「薬を飲まないこと」だそうです。これは、玄米を食べたり、生野菜のジュースを飲んだり、水に気

をつけたりと、できるだけ自然からの恵みをそのまま享受し、異物をとり入れないことだそうです。

ストレス過多や環境汚染が進む現代ではなんらかの薬を飲用されている方が多いと思いますが、自然食をとり、本来のからだごもつ自然治癒力を高めながら健康を維持していくことがこれからは大切であり、氏はそれを実践されていると私たちは思いました。

こうして、二ヵ所にわたってお付き合いくださった皆さんにお礼を申し上げて、今日の取材に終止符を打ちました。

皆さん、ご協力ありがとうございました。

取材のなかで上西社長がおっしゃっていた「人に騙されても騙してはいけない」という言葉が帰りの車中でも頭に残っていました。

人との信頼関係がなくては社会では通用しません。長い年月を要して築き上げた上西社長を頂点とする丸上物流の信用は揺るぎないものと確信すると同時に健保組合も、加入されている皆さん方との信頼関係の構築に、さらなる努力をしなければと、決意を新たにしたいところです。